

「変わった景色」

福岡市立東住吉中学校

後藤 優月

私の家のすぐ近くには一つの公園があった。その公園は、雑草が伸びきって遊具にはスプレーで落書きがされており、遊んでいる人を見たことがないくらい人が近寄らない公園だった。

しかし、ある時その公園の工事が始まった。約半年間の工事が終わると今までの公園と違った落ち着いた雰囲気の綺麗な公園ができあがっていた。この公園はどうやってできたのだろうか。国や地方公共団体が税金を資金源として施工し完成させたものだった。この工事のおかげで、公園には毎日沢山の子ども達に来て楽しそうに遊んでいて地域の雰囲気も以前と比べものにならないくらい明るくなった。また、公園にはベンチやストレッチ器具、ランニングコースなどがあるため子どもだけでなく大人の人もよく来るようになった。

ある日、近所に住む年下の女の子と遊んだ際、彼女は「あの公園で新しいお友達が沢山きた。」と話してくれた。彼女は人見知り激しく、小学校に入ってもなかなか友達ができずにいた。しかし、公園に行くことで会う機会が増え、打ちとけることができたのだ。彼女のお母さんも「公園が新しくなって本当に良かった。」と喜んでいて。

私は税金が嫌いだった。余分にお金を取っているだけだと思っていたからだ。しかし、税金によって変わった公園のおかげで静かで寂しい雰囲気の地域から、毎日楽しそうな声がかきこえてくる明るい雰囲気の地域へと変わった。公園以外は昔と変わらないけれど家の窓から見える景色は以前よりも何十倍も明るく変わった。税金の使い道によってこんなにも変化があるのだと知ることができた。そして、他にどのような事に税金が使われているのかが気になったので調べてみると想像以上に小さなことから大きなことまで税金が使われていたのだと知り、今まで税金なんて必要じゃないと思っていた自分が恥ずかしくなった。

かつての私のように税金というとマイナスのイメージをもっている人が大勢いるだろう。近々、消費税率が上がることを懸念する声も多い。少子高齢化が進む中、これからの若者にかかる負担は確かに大きい。それでも、税金によって助かる命や税金のおかげでうまれる笑顔は計り知れないほどあり、税金によって今ある私たちにとってのあたりまえの暮らしができていくのだ。税金は損なんかではないのだということを大勢の人に伝えていきたい。